【障害者施設向け】ケース記録・SOAP形式 基本ルール＆場面別文例シート

主観から客観（FACT）へ！短時間で書けて支援につながる標準記録ガイド

1. SOAP形式の基本概要＆スピーディーに書く3原則

S（主観）	O（客観）	A（評価）	P（計画）
本人の発言 「お腹が痛い」等、利用者の言葉をそのまま記述	**観察した事実** バイタル・時間・行動・数量など客観的事実	**分析・推察** SとOから考えられる状態や原因のシンプルな考察	**方針・対応** 今後の具体策・様子観察項目・引き継ぎ事項

【書き方の3原則】 1. **「事実（O）」から書き始める**（感情を挟まず状況をスムーズに言語化）
2. **本人の発言がない場合は「OAP」でOK**（無理にSを作らず行動中心で構成）
3. **A（評価）とP（計画）は短文で簡潔に**（「～の可能性」「～を継続観察」と要点のみ記述）

2. OAP変換の実践例（主観から客観事実への書き換え）

場面	✕ NG（感想・主観）	○ OK（OAPによる客観事実記述）
① 作業離席	集中力がなく、サボり気味であった。	**【O】**14:00作業開始10分後に離席。室内を散歩。「休憩しますか」にうなずく。 **【A】**昼食後による集中力低下・疲労の可能性あり。 **【P】**10分休憩後作業再開。明日も14:00頃に声掛け・適宜休憩。
② 食事拒否	わがままを言ってご飯を残した。	**【O】**昼食の主食1/2残食。「お腹が痛い」との訴えあり。バイタル異常なし。 **【A】**身体的発熱はないが、消化不良や精神的ストレスの可能性。 **【P】**夕食時の摂取量と症状を継続観察。変化あれば看護師へ報告。
③ 情緒不穏	突然ご機嫌ナナメになりパニック。	**【O】**15:00のチャイム直後、耳を塞ぎ大声を出してしゃがみ込む。静養室へ移動。 **【A】**チャイム音に対する聴覚過敏・驚きによる不穏。 **【P】**事前声掛け（「もうすぐ鳴るよ」）の徹底とイヤーマフ着用を提案。

3. 場面別 短文フレーズ集（そのまま使える文例）

① 食事・水分摂取

【良好】主食・副食ともに全量摂取。咽下状態良好。会話も穏やか。

【見守り】ペースが速く詰め込み見られたため「ゆっくり噛みましょう」と声掛け。その後調整あり。

② 作業・日課活動

【達成】○○作業に○分間集中。「できた」と笑顔で見せに来られる。

【選択】作業提示に首を振る。2択（○○/○○）を提示すると○○を選択し再開。

③ 入浴・清潔・排泄

【入浴】声掛けにて浴室へ移動。洗髪・洗身とも見守りで自立。5分間入浴。

【排泄】定刻誘導にて自立排泄完了。衣服の乱れを指摘すると自分で整えられた。

④ 余暇・交流

【交流】他利用者と○○ゲームを行い笑顔で参加。発言機会も多く見られた。

【調整】他者とテレビ枠で葛藤あり。別室での読書を提案すると快諾。

⑤ 体調・服薬

【服薬】食後薬を目視確認の上配薬。白湯で嚥下完了（口内残薬なし）。

【不調】「頭が重い」と訴えあり。バイタル測定後、30分安静（看護師報告済）。

⑥ パニック・こだわり

【対応】大声を出ししゃがみ込む。別室（静養室）へ案内し15分見守り後落ち着く。

【提示】同じ質問が続いたため、視覚的予定表を提示して説明。納得された。